

錦織監督

映画の現場から



●●54

## ベトナムで「渾身」上映

日越国交樹立40周年の記念行事として映画「渾身」が11月にベトナム全土で上映されるのに先だち、ベトナム国立映画館で先日レセプションと試写会が催され、行ってきた。

約9千万人の人口の平均年齢が28歳。町の活気は、その若さ故なのだろうか。建国から1千年を超える歴史があり、村々にはお寺はもちろん、いわゆる神社がある。国民性は礼儀正しく、丁寧で、きめ細かい。儒教や仏教の信仰によるおもてなしの心を出会う人々から感じ、日本人とよく似ていると思った。

上映後の渾身の反応は上々。同行してくれた主演の青柳翔君と喜んだ。イケメンが人気なのは万国共通。映画館のロビーに主人公の英明こと青柳君が姿を現すと、たちまち女性陣が取り囲んだ。

当日はベトナムの小津安二郎と言われている監督や女優さんなども来場し、感

## 若者の日本の印象変わる

想を話してくれた。メンタルに関しては似ていることもあり、日本と同じような反応に一安心。甲本雅裕さん演じる地元の世話役・清一が、酔っぱらって財前直見さん演じる伸枝に告白するシーンなどは、日本以上に若い観客に大受けだった。

上映後に若者の感想を聞き(当然のことながら全体に若い観客が多い)、思わ

ず、フランスの映画祭で私の通訳に就いてくれた大学院生フィリップ君を思い出した。

日本に住んだこともある彼は、こう言って日本を絶賛した。パリの町はしょせん、人間が作ったもの。きれいな水、空気、自然など、人間が作れない環境や景観が色濃く遺っている日本の方がすごいじゃないか。ローカルに色濃く遺る

コミュニティも素晴らしいと。

それらが描かれた「渾身」を見て、日本に行ったことのないベトナムの若者は、ガリリと日本の印象が変わったという。アニメやゲームで見た日本は「ハイテク」「ロボット」「高層建築」「合理的な社会」「ビルに囲まれた都会」というイメージだったそう。

隠岐の島に行ってみたいとうれしそうに語る彼らの姿は、映画「うん、何?」を見て、いつか住みたいと言ったフィリップ君や、カナダで出会い、隠岐に留学したいと言った女子学生と重なった。

ベトナムの神社にはお神輿があり、天井には雲の画を発見した。アジアと日本つながりを感じ、島根には世界に自慢できる「本物」が遺っていることをあらためて実感した。

今年、隠岐高校が創立100周年。明日、その式典に参列させていただく。大変光栄だ。次の100年に思いをはせ、隠岐世界ジオパーク認定ともにお祝いしたい。

(錦織良成・映画監督)

第4金曜掲載



ベトナム国立映画館でのレセプションにて「ベトナム・ハノイ」